## 入射角特性の拡充

平成30年度基整促事業で構築した簡易熱負荷計算の入射角特性は、現行省エネルギー基準で熱負荷に用いられている温熱環境シミュレーションプログラム　AE-Sim/Heatと同じ入射角特性を実装した。ここでは、以下の方針のもとJIS A2103-2014　窓及びドアの熱性能－日射熱取得率の計算　の附属書G　斜入射に対する板ガラスの光学特性の計算方法　に記載の方法を実装する。

単板と複層で式を分ける

付属部材からの（多重）反射などは考慮しない、従って、ガラスの枚数のみで決める

熱線反射ガラス等の区別は（入射角特性の式においては）しない

JIS A2103-2014における入射角特性は入射角をとすると（1）、（2）、（5）、（6）式で求められる。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| （単層の場合） |  | （1） |
| （複層の場合） |  | （2） |
|  | | （3） |
|  | | （4） |
| （単層の場合） |  | （5） |
| （複層の場合） |  | （6） |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ここで、 | ： | i室の部位kにおけるn時点の直達日射に対する日射透過率 |
|  | ： | i室の部位kにおける垂直入射時の日射透過率 |
|  | ： | i室の部位kにおけるn時点の直達日射に対する日射吸収率 |
|  | ： | i室の部位kにおけるn時点の拡散日射に対する日射透過率 |